

東近江の未来資本を太らせよう



東近江三方よし基金

資料 8

市民コミュニティ財団の役割

公益財団法人東近江三方よし基金常務理事

山口 美知子

地域経済循環分析

<http://www.env.go.jp/policy/circulation/>

東近江市総生産(／総所得／総支出)4,446億円【2013年】

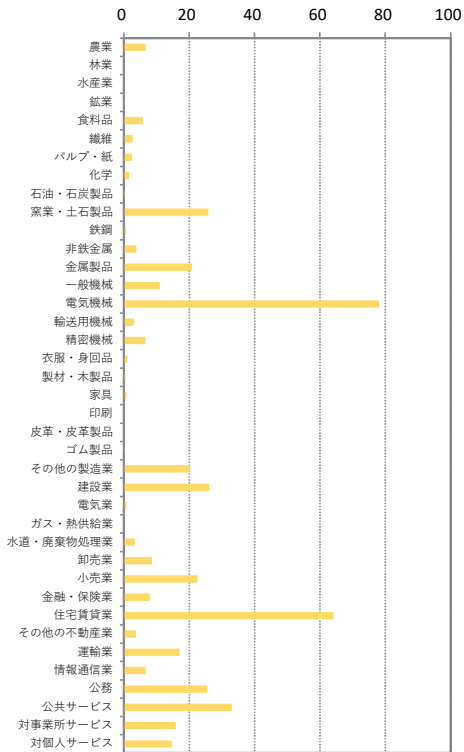
地域外

フローの経済循環

生産

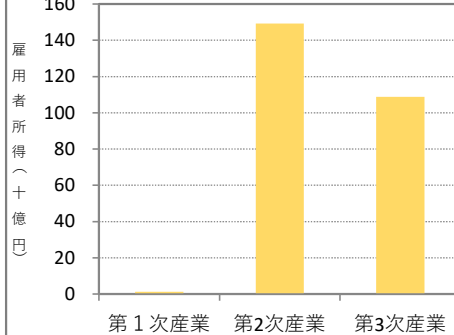
産業別付加価値額

付加価値額(十億円)

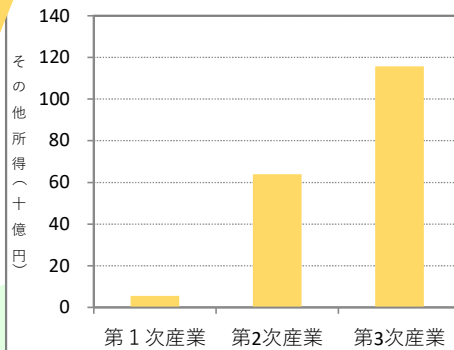


分配

雇用者所得(2,593億円)



その他所得(1,853億円)



注) その他所得とは雇用者所得以外の所得であり、財産所得、企業所得、税金等が含まれる。

支出

消費

3,172
億円

域際収支

460

移輸出

5,284

移輸入

4,824

億円

投資

815

億円

域際収支(十億円)



民間消費の流出：
約734億円
(消費の約23.1%)

所得の獲得：
電気機械、金属製品、窯業・土石製品、その他の製造業、住宅賃貸業、精密機械、公務、農業、一般機械、繊維、

エネルギー代金の流出：
約294億円 (GRPの約6.6%)
石炭・原油・天然ガス：約68億円
石油・石炭製品：約131億円
電気：約77億円
ガス・熱供給：約18億円

注) 石炭・原油・天然ガスは、本データベースでは鉱業部門に含まれる。

民間投資の流入：
約31億円
(投資の約3.8%)

金融機関等

自然資本(環境)

人的資本

人工資本

社会関係資本

地域資源ストック：フローを支える基盤

注) 消費 = 民間消費 + 一般政府消費、投資 = 総固定資本形成 (公的・民間) + 在庫純増 (公的・民間)

資金循環におけるベースの考え方

Point①地域資源を活用して魅力向上

- ・ 歴史文化遺産の磨き上げ
- ・ 地域の人財の磨き上げ
- ・ インフラの有効活用

Point②地域資源を再評価し保全・再生

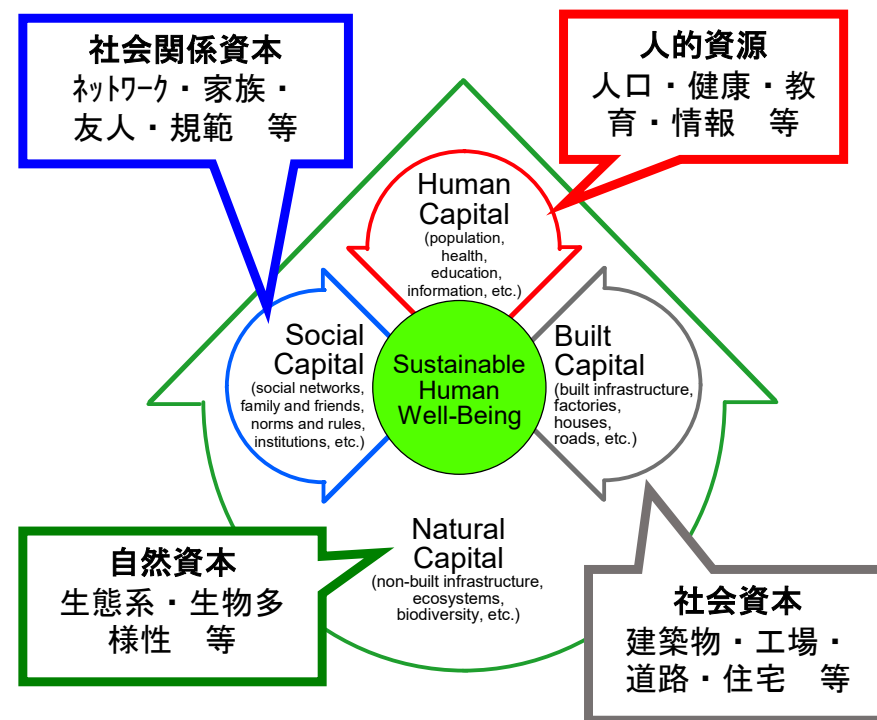
- ・ 森林、河川の保全・再生
- ・ 生活弱者対応と地域共生の仕組みづくり

Point③ソーシャルキャピタルの醸成

- ・ 市民意識変化による社会変革
- ・ セーフティネットの構築



自然環境をベースにそれらを保全し活用する取組
人と人・人と自然をつなぐ取組



資金循環に係る東近江三方よし基金の役割

①外から調達
寄附・出資
休眠預金
公的資金



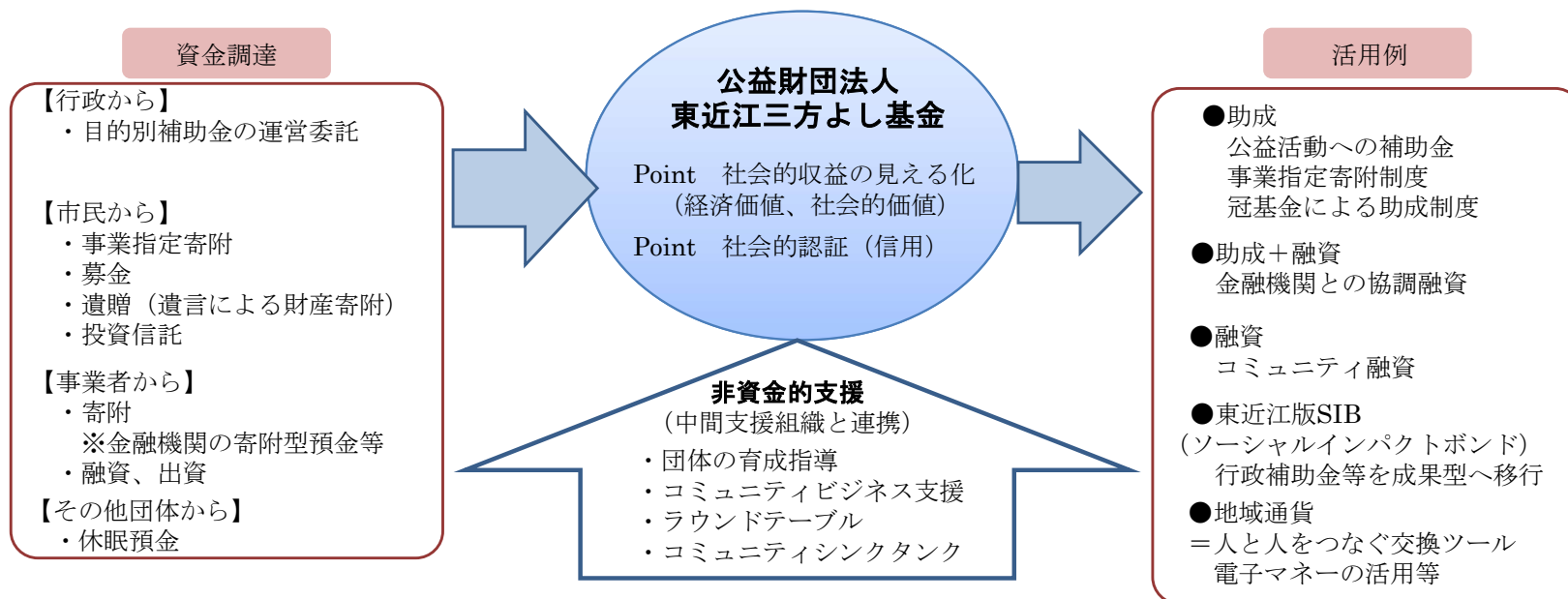
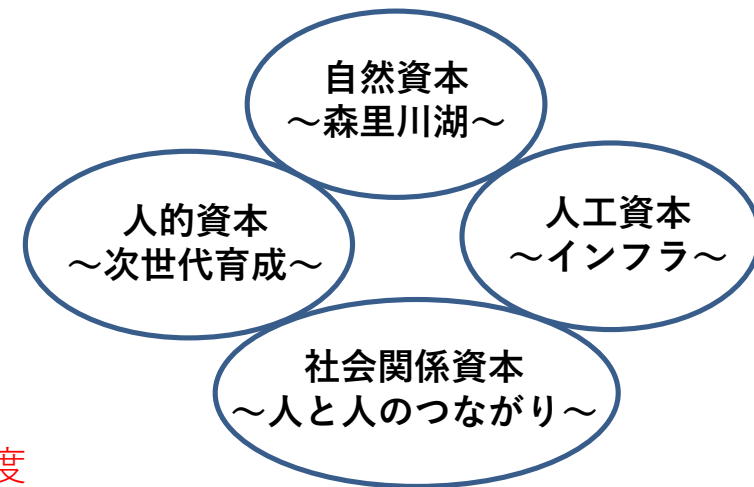
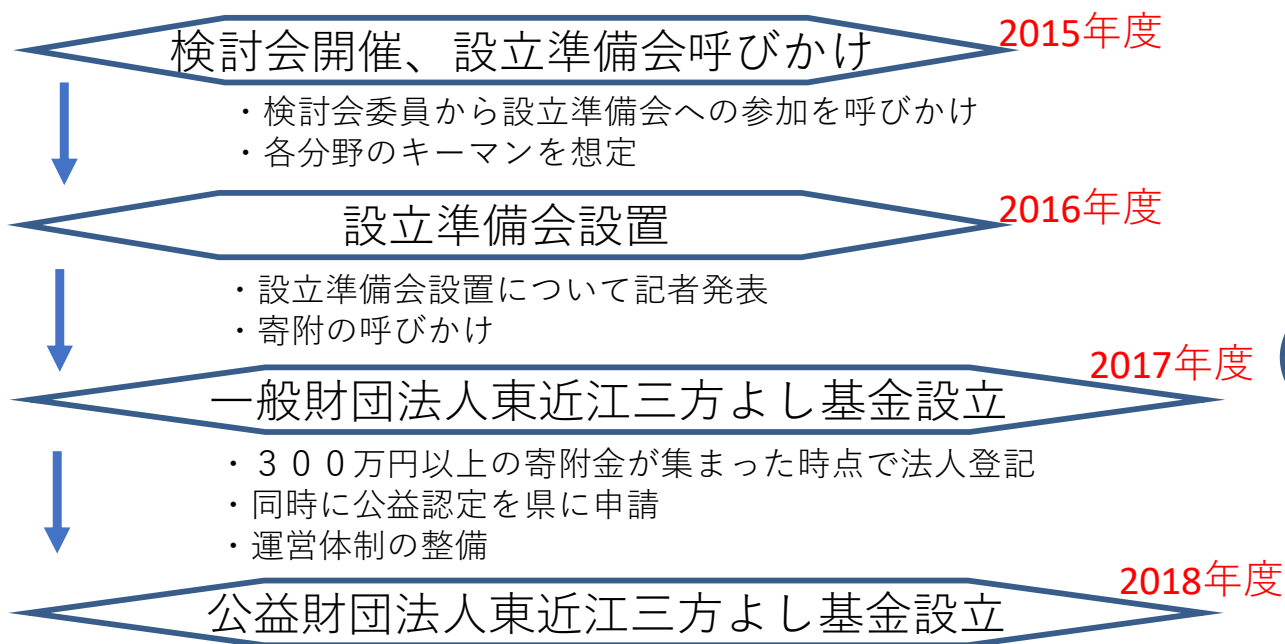
③地域で回す
信金預貸率40%の改善
タンス預金の循環

②流出を止める
消費の流出約700億円
相続による流出?億円

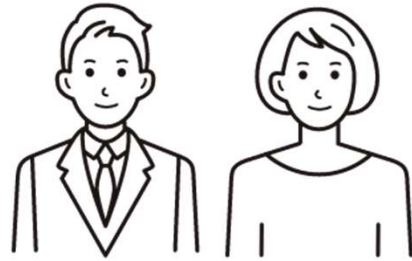


商店の魅力向上
地元消費の喚起
遺贈寄付の普及

基金設立に向けて







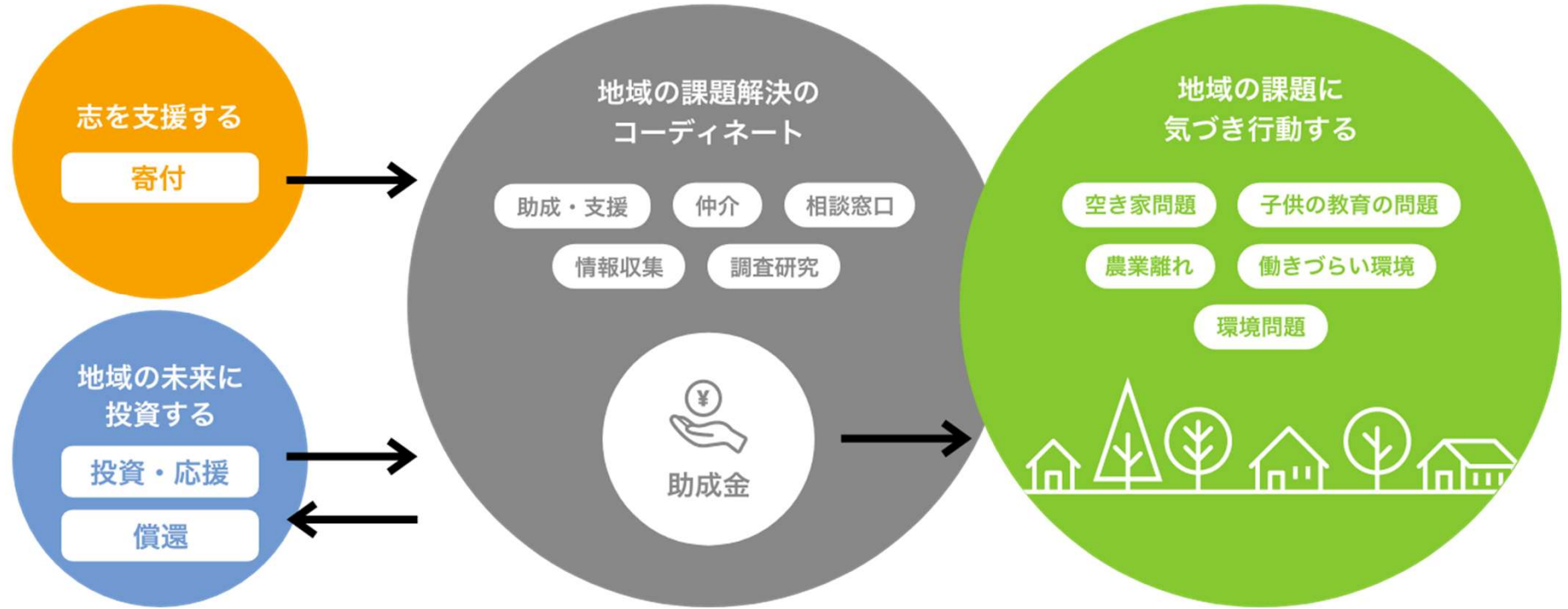
支援者（個人・企業）



東近江三方よし基金



社会的事業者



異なるセクターにおける様々な主体
 (行政、企業、NPO、財団など) が、
 共通のゴールを掲げ、お互いの強み
 を出し合いながら社会課題の解決を
 目指すアプローチ



<コーディネーター>
牛尾 洋也氏
 (龍谷大学聖山学術センター長、法学部教授)
 大阪市立大学大学院法学研究科後期博士課程単位取得退学、龍谷大学法学部教授、同里山学術センター長として活躍。



<事例発表者>
山崎 亨氏
 (アジア猛禽類ネットワーク会長)
 アジアの自然環境保全を図るため、アジア各国での地域一体となった猛禽類の研究と保護下活動に傾注している。



<事例発表者>
水田 有夏志氏
 (東近江市審議員)
 滋賀県職員として森林・林業行政に携わった経験を活かし、東近江市の多様な資源活用に着目した取組を行う。



<事例発表者>
栗田 徹氏
 (東近江市農林水産部長)
 平成 27 年に農林水産省から東近江市へ出向。農林分野において、東近江市の特色ある施策の反映に努める。



<事例発表者>
出島 誠一氏
 (日本自然保護協会生物多様性保全室長)
 群馬県みなかみ町にて、生物多様性の復元と持続的な地域づくりを目的とした赤谷プロジェクトの推進を行う。



<事例発表者>
落部 弘紀氏
 (東近江市永源寺森林組合)
 林業の現場最前線で活動し、東近江市の林業を支える貴重な担い手の一人であり、また、後継者の育成にも努める。



<事例発表者>
回漕 享治氏
 (マックスウッド)
 20 年前から暖炉・薪ストーブの利活用に着目し、実証実験を重ね、広葉樹を中心とした薪の普及活動を行う。



<事例発表者>
川村 克己氏
 (川村工務店三代目)
 日本の古くからの伝統工法を守り続ける川村工務店の三代目で、木のジャングルジムの「くむんだー」を開発、普及を行う。



<事例発表者>
井上 慎也氏
 (クミノ工房)
 東近江市産の杉を使った「きぐみのつみき KUMINO」を独自に開発し、森林資源を活用した取組を行う。

<共有：円卓会議の開催>
 様々な分野の事業者、研究者、行政、NPOが現状と課題を共有

- ・日本の森林林業施策の現状と課題
- ・東近江市の森林の現状と課題
- ・森林資源の有効活用の必要性
- ・今後100年に向けた森林づくりの必要性
- ・人材育成、独自の資金調達など必要な仕組みづくり



東近江の 森と人をつなぐ あかね基金



対象事業の要件 (すべて満たすことが条件となります。)

- ・ 東近江地域の豊かな自然資源 (森・里・川・湖) を活かす
- ・ 市が策定した「東近江市100年の森づくりビジョン」に貢献する
- ・ エネルギー消費の削減、生物多様性の保全など、環境に配慮する
- ・ 地域の人と人とのつながりが生まれる
- ・ 持続可能な東近江市の将来社会の実現につながる
- ・ 地域の課題解決につながる

2019年度～2022年度公募分 17事業 総額6,613,000円



一般社団法人TeamNorishiro
「山主と働きもんのコラボレーション事業」



さとやまNannies
「さとやまNannyプロジェクト2021」

第11回 東近江トレイル(織山北端ショートコース)
草木の芽吹きと花香る春の織山ツアー

歩行時間は約4時間 歩行レベル 2 難易度 1

2023年
4月23日 日
9:30～15:00(受付9:00～)

集合 能登川駅前(東口)

内容 草木染め作家さんをガイドに迎え、織山にあふれるみずみずしい植物を馴染みの草花から初めて聞く植物まで細やかな説明をうけて巡ります。趣向を凝らした食もお楽しみください。

参加費 4,500円/人(ガイド代・保険料・昼食代・拝観料・里山整備基金など含む)

募集人数 10名(最少催行人数6名)

申込締切 先着順(定員になり次第締切)

対象 初・中級程度の山歩きが出来る人

主催 東近江トレイル実行委員会 東近江市五個荘
申込・問合せ TEL 0748-48-7303 E-mail go-apply@e-

東近江トレイル実行委員会
「東近江トレイルツアー」

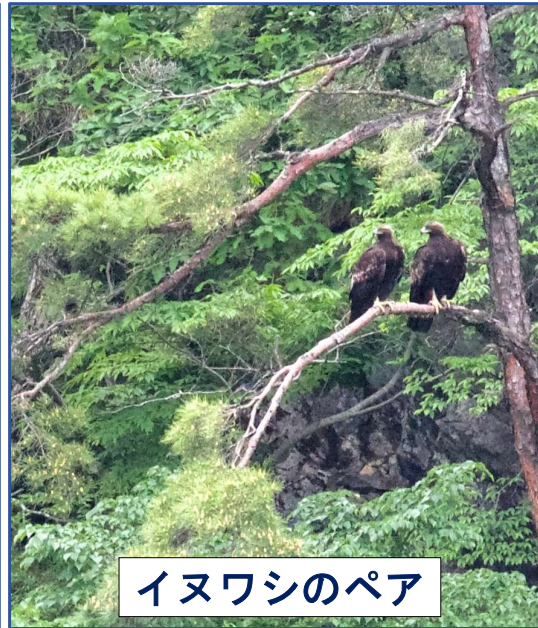
<特徴>

- ・ 分野や立場を超えた連携事例 (森と福祉、森と子ども、里山とエコツアー等)
- ・ 事業の継続性を意識した提案と伴走支援
- ・ 環境、地域経済、社会課題の視点から成果評価を導入

東近江に再びイヌワシを呼び戻すプロジェクト協議会



天狗堂からの景色



イヌワシのペア



東近江に生息していた
イヌワシの個体



当時イヌワシの狩場と
なっていた場所

事業が目指すもの

- イヌワシを呼び戻すには大きな事業規模と年数が必要であり、すぐに成功することは難しいのが現状。

イヌワシを呼び戻そうとする取り組みを通して広く住民や県民に関心を持ってもらうことが重要

- 森で起こっている出来事を知ってもらい地元の森の持っている生態的潜在力を知ってもらう
- 生物に適する森はヒトに対しても健全な森であり実は自分たちと深いつながりがあることを知ってもらう機会としたい。

イヌワシが生息しなくても森はあるがイヌワシの生息する森はそれだけで地元の自然遺産である。

湖東信用金庫・公益財団法人東近江三方よし基金 連携制度融資「ビーナス」

公益財団法人三方よし基金と湖東信用金庫は、東近江市において、社会・経済や、地域にとって必要である公益性の高い事業を行う事業者様を応援します。融資を希望する事業者は、公益性評価に関する申請を東近江三方よし基金に行い、その報告書と共に湖東信用金庫に融資申込を行う。一定基準以上の評価を得た事業者にのみ融資を実行する。この制度融資に関しては、一部基金が利子補給を行う。

<公益性評価基準>

ガバナンス・コンプライアンス

事業の妥当性

実行可能性

継続性

環境の視点

地域経済の視点

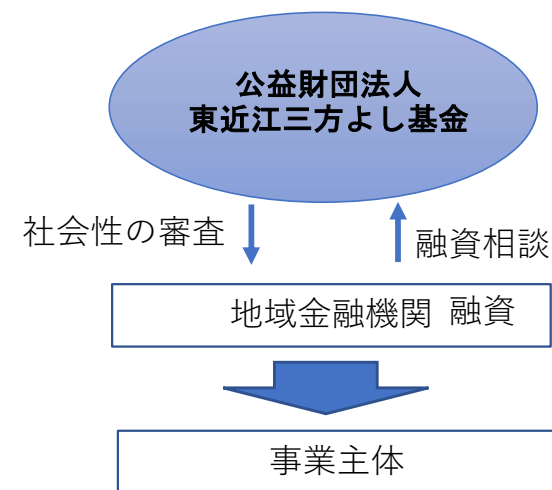
社会課題の視点

波及効果

連携と対話



東近江市永源寺相谷熊原遺跡出土
「縄文のビーナス」



社会	地域密着度（地域の自然と人と関わる時間）	人・時間
経済	地域経済への貢献度 （地域内循環額、地域外流出阻止額）	万円
環境	環境への配慮度 （里山保全、再エネ、省エネ、CO ₂ 排出削減量）	KgCO ₂

【基金の役割】

- ・ 環境、経済、社会を含む公益性評価
- ・ 成果目標達成のための伴走支援
- ・ 利子補給

支援事例

団体名：愛のまち合同会社

事業名：スーパー再建による持続可能な地域課題の解決

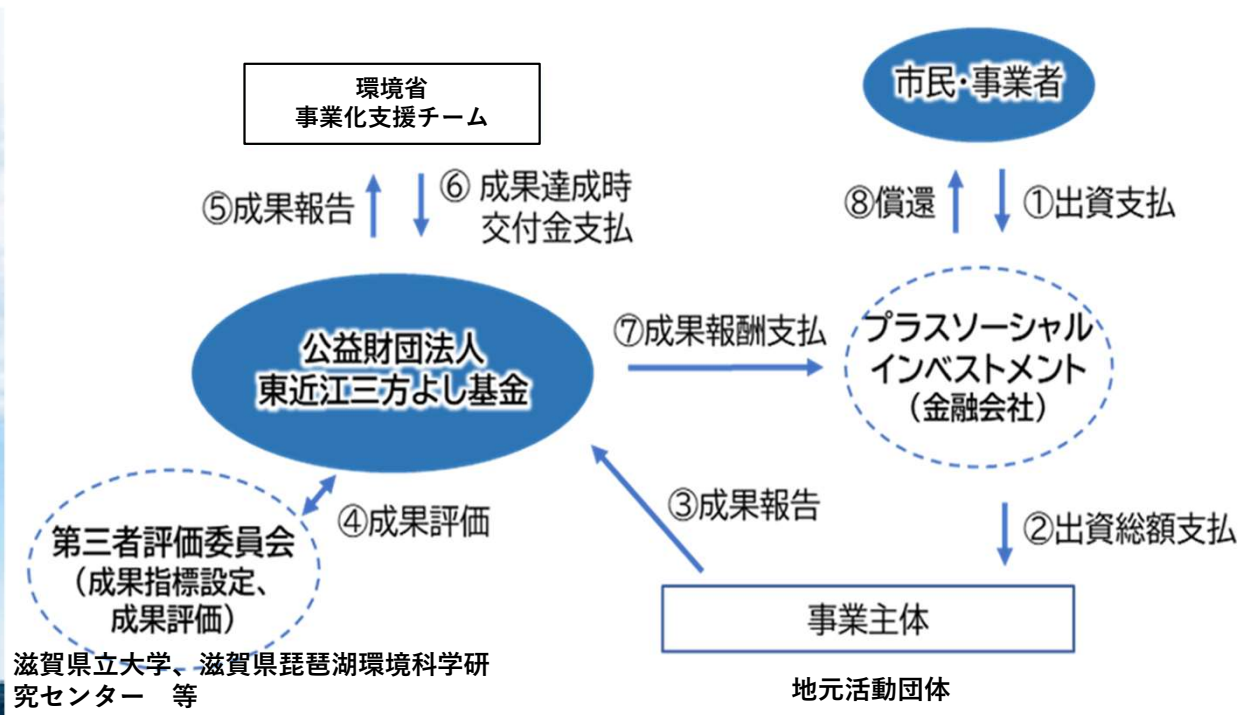
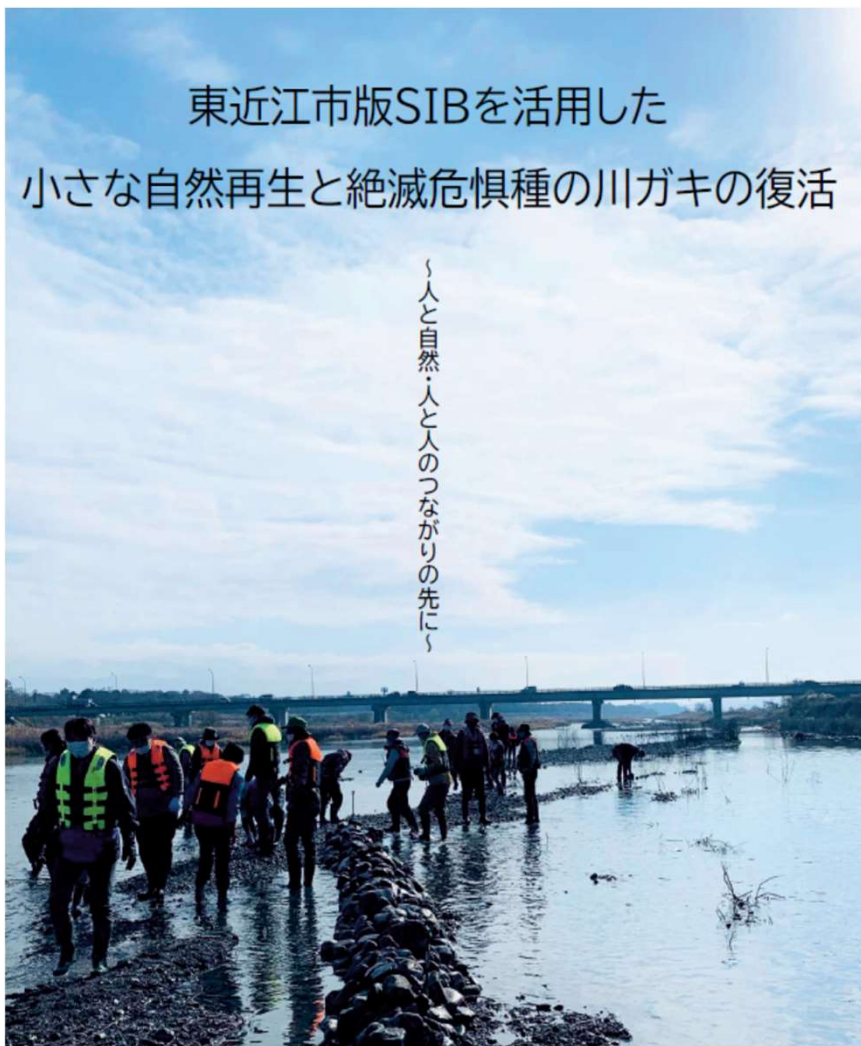
公益性評価のポイント：

地域の課題を的確にとらえ、今だけでなく将来の地域の不安も解消しようとする素晴らしい取り組みである。地元食材の調達など環境への貢献も期待されるとともに、地域の雇用創出など地域経済への貢献についても考慮されており、公益性の観点からも高く評価できる。

融資額：500万円



東近江市版ソーシャルインパクトボンド (SIB)



【進め方】

- 選考会 & **成果目標設定** (基金)
- 出資募集 (金融会社)
- 事業者への資金提供
- 成果報告書提出 (事業者)
- 成果評価委員会、成果報告会** (基金)
- 出資金償還 (公→基金→PSI→出資者)

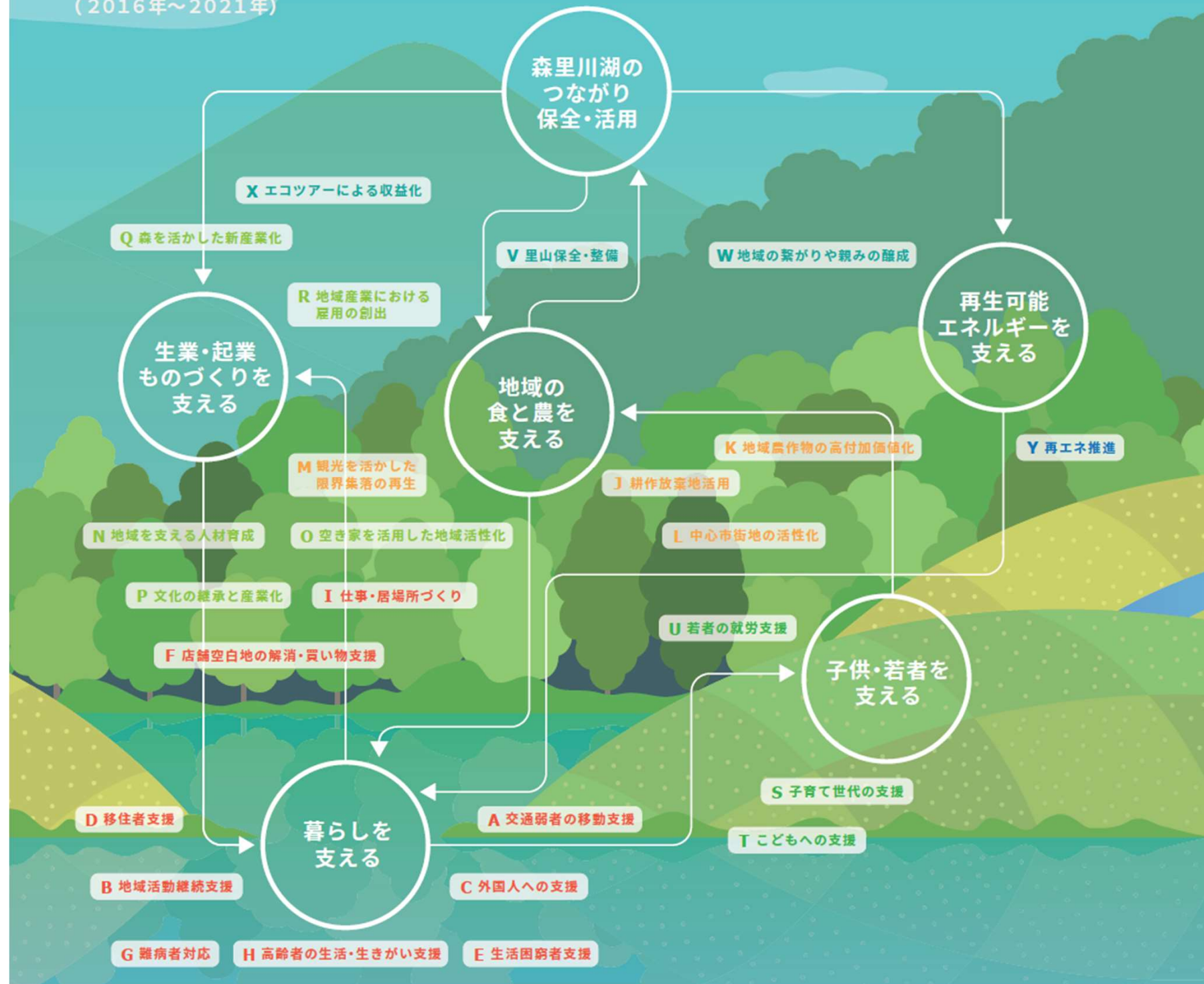
【実績】

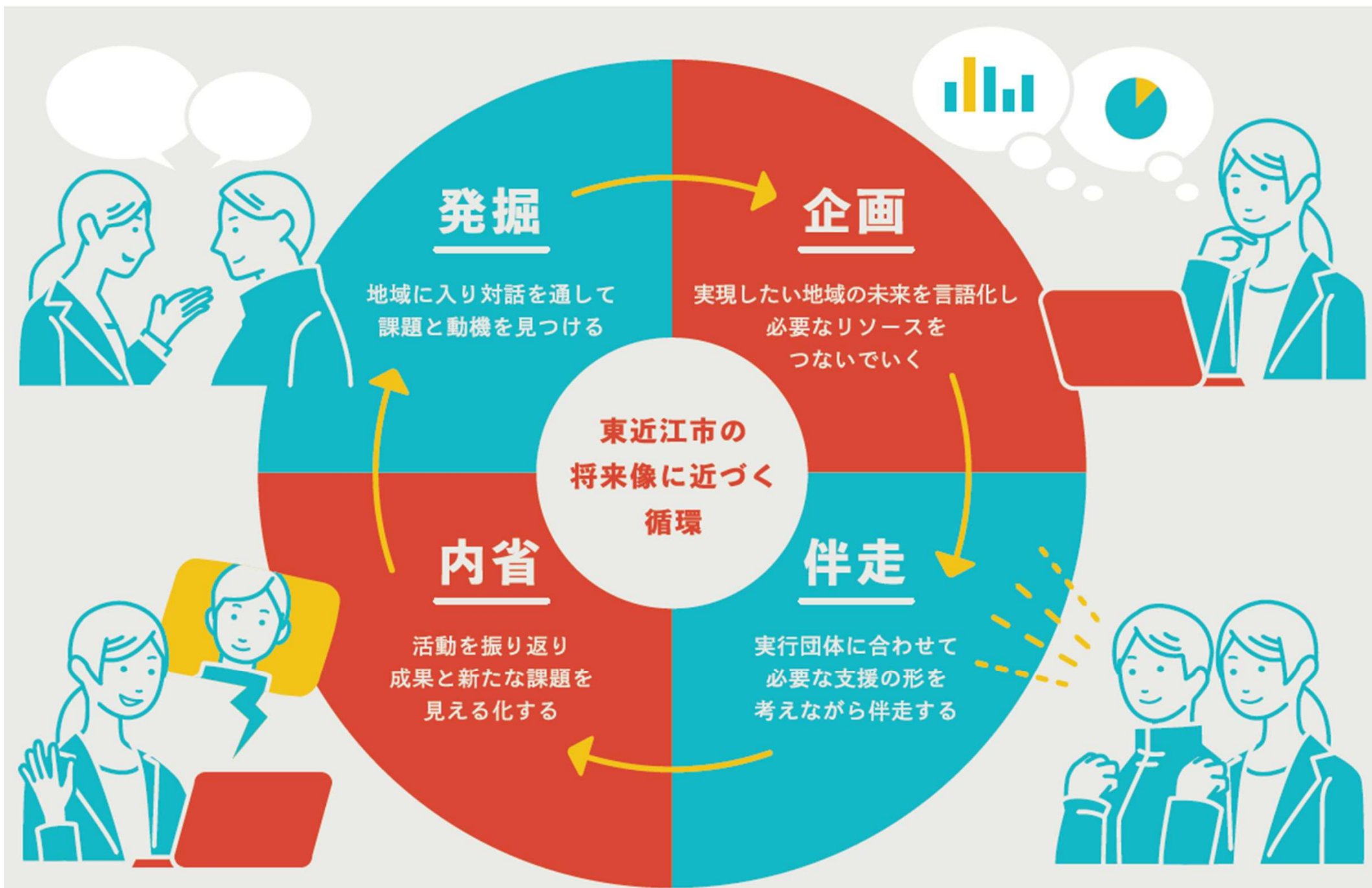
- 事業数 25事業 (2016年～2022年度)
- 出資募集総額 17,330千円
- 出資者累計 459件



東近江三方よし基金 プロジェクトマップ

(2016年～2021年)





8 PHILOSOPHY OF HIGASHIOMI PROGRAM OFFICER

東近江プログラムオフィサーの8つのフィロソフィー

東近江プログラムオフィサー（PO）が考える

「地域活動支援をするにあたり、大切にしていること」を8つにまとめました。

01 : 地域活動者との丁寧な対話と理解から : 全てが始まる

地域に今どんな課題があり何をしなければいけないかは、現場の活動者が一番見えているとはずです。だからこそ、地域の活動者と膝を突き合わせて丁寧に対話し、現場の声を聞くことが大切です。そのプロセスがあるからこそ POは地域の活動者が本当は何を解決したいのか、何を目指しているのかを明確に理解できるのです。この理解がなければ、その人の想いに合った提案も伴走支援もできません。地域の活動者との対話と理解から全てが始まります。



02 : 地域の想いや熱意が : 活動支援の原動力

東近江には、自分の利益のためでなく、地域や誰かのために一生懸命に活動している人たちが本当にたくさんいます。そのような方々の想いや熱意に触れると、なんとかして応援したいという気持ちが芽生え、それが活動の原動力になっています。私たちが助成金申請の支援や伴走支援をする際には、第三者に対して代わりにプレゼンすることもよくあります。PO自身が、その活動が地域にとって必要なことだと言語化できるかどうかは、とても大事なことです。



03 : 常に課題とリソースの組み合わせを : 考えている

地域の活動者から相談を受けたときに、誰の力を借りたらこの課題を解決できるか、どんな資金があるとよいか常に考えながら話していくと、その解決策が見つかったりします。すぐに解決策が見つからなくても、いろんな人をつないだり相談していくなかで道が見つかることもあります。東近江エリア内の人や課題、助成金など活用できるリソースが頭にあるとないのでは大きな違いがありますし、それを繋げていけるかどうかは POの腕の見せどころです。



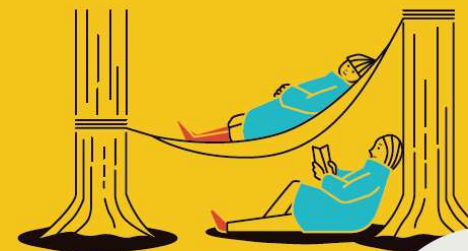
04 : 助成金ありきではなく : 可能性から案件を作り出す

東近江 POは、地域の活動者からの助成金申請をただ待って、助成金を分配するというスタイルではありません。地域を見渡し課題を認識し、解決できそうな人や可能性を見つけたとき、助成金制度の存在を共有し、提案しています。地域の活動者たちが「助成金制度を活用してチャレンジしたい」となってはじめて、助成金の申請や伴走に移っていくスタイルです。地域の課題解決できる人や可能性があってこそ、そこに解決の道が生まれるのです。



05 : 連携しながら : 総合的な地域課題の解決を目指す

地域の課題やニーズが複雑化・多様化しているなかで、単独の事業や分野での課題解決が難しい状況が生まれています。だからこそ、分野や世代を超えた総力戦で地域課題に取り組む必要があります。そのような様々な視点から1つの課題を見ることが、結果的に総合的な地域課題の解決につながります。だからこそ、それぞれの活動団体や活動者とも連携しながら、地域課題の解決を目指して取り組むことが重要です。



06 : 新しい担い手の発掘と支援の連続が : 地域力を高める

実績と実行力がすでにある団体の支援は楽かもしれません。ただ、実績のある団体ばかり支援しては、地域の力としては先細りしてしまいます。長い時間軸で地域の未来を考え、自分たちで地域課題を解決する力を養い、活動を継続していくためには、大変であっても新しい担い手の発掘と支援も大切なことです。地域の課題に気づき、行動を起こそうとしている人たちも応援していくことが地域にとって必要なことだと信じています。



07 : 灯った小さな火が消えないよう : 寄り添い続ける

地域課題の解決に向けたアクションは、小さな気づきや、誰かの「なんとかならいいな」という想いから始まります。芽生えた想いや熱意の小さな火が消えてしまわないように、その人の想いに寄り添い、解決方法を一緒に模索することが大切です。寄り添い続けていれば、そこにあった「なんとかならいいな」の想いが、「私がなんとかしなくては」とアクションに変わり、事業として形にしていけるためチャンスに巡り合うことにつながるのです。



08 : 伴走支援は計画遵守より : 何が大事なのかを重視する

助成金事業が採択されると、団体による活動が始まります。POは助成金申請時の計画に沿って伴走支援を行います。想定していなかったことが発生したり、失敗しそうなこともあります。そんなときは、計画を順守することだけに注視せず、本当に達成したい目的を重視します。必要であれば一緒に計画の見直しや変更をすることも大事な支援です。



Environment & Social (人と自然、人と人のつながりの継承)

東近江三方よし基金では、環境（CO2、生物多様性）、経済（地域経済貢献度）、社会（人と自然・人と人のつながり時間）の視点で、分野を超えてつながるプロジェクトを支援

東近江市版SIB

Laque
 マスカットベリーAを中心としたワイン用のぶどうの栽培や醸造技術の習得を行い、東近江市産ぶどう100%のワインを自家醸造・販売できる体制を構築することを目指す。



東近江市版SIB

MURASAKI no ORGANIC
 万葉の時代から滋賀県東近江地域にある「紫草（ムラサキ）」を使ったオーガニックのスキンケアコスメ「MURASAKI no ORGANIC」を商品化。耕作放棄地の解消と山間部の雇用創出を目指す。



東近江市版SIB

政所茶生産振興
 室町時代から続く有機栽培・手摘みの政所茶の継承を実現するため、付加価値の高い販路開拓、山村の丁寧な暮らし体験ツアー等を実施する



社会的投資

市民共同発電所
 市民出資で太陽光発電を設置し、その売電益は地域商品券で還元し、地域でお金を回す仕組みにつなげる。その一部を公益活動への寄附にあてる団体もある。



東近江市版SIB

がもう夢工房
 空き店舗を改修して、地域の拠り所としてコガモカフェをオープン。着地型観光や人材バンク、子ども食堂など、地域の拠点として活用。定期的にマルシェを開催し、地元野菜や果物を販売。



東近江市における社会的投資推進に関する協定締結 (2018.11.16)

湖東信用金庫 (地域金融機関)
 ・地域の社会的投資商品の紹介
 ・東近江三方よし基金の理念に貢献する起業・創業提携融資を検討

公益財団法人 東近江三方よし基金 (基本財産は772名の志民寄附)
 H29.6.12設立→H30.7.2公益認定
東近江市版SIB事業
 (地域の社会的投資による成果連動補助金)
自然環境を生かした新・近江商人応援事業
 (寄附を活用した起業・創業支援助成) etc

プラスソーシャルインベスメント株式会社 (第二種金融商品取引業者)
 ・社会的投資の案件組成
 ・社会的投資のためのプラットフォーム設置・運営

・普及啓発

東近江市版SIB

薪プロジェクト
 獣害を防止するため雑木林を伐採し更新するため、雑木を薪として販売し、エネルギーとして利用する仕組み。薪割作業を地域の働きづらさを抱える若者らの中間的就労の場となる。



東近江市・事業者募集及び交付金支払 ・評価委員会に参加

社会的事業への資金調達支援に関する協働協定書 (2017.6.20)

Local Governance (共に考え、共に創る 地域自治の継承) 中間支援組織：NPO法人まちづくりネット東近江との連携

東近江三方よし基金では、市、中間支援組織と連携して多様化する地域の課題を発見・共有し、共通価値を創出する自治のあり方を継承

【NPO法人まちづくりネット東近江】
 Vision：誰もがまちの創り人（つくりて）となる社会を目指して
 Mission：思いを形にしたい人達のあゆみに寄り添う

- ✓地域自治の基本となる課題発見能力と共感性（小さな夢やSOSを見落とさない関係性の構築）
- ✓気づきから行動、そして仲間づくりへのサポート
- ✓一粒で二度も三度も美味しい、をベースにした地域「総働」の実現

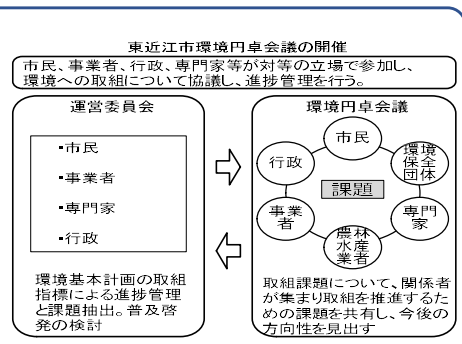
新たな課題

コレクティブインパクト事業
 利害関係者が多く、複雑な課題について取り上げ、課題の共有から協働プロジェクトの創出、課題の解決に導くためのチャレンジ。
 ラウンドテーブル運営委員会と連携する。
 実績：①イヌワシの棲む森づくりプロジェクト 等



プラットフォーム

東近江市環境円卓会議
 環境・経済・社会の視点で、分野を超えてつながるプロジェクトを普及すると共に、環境基本計画の進捗管理も担う。新たな地域課題を深め共有する場を設定する環境円卓会議を運営する。



人材育成

地域ブランディングの本質
 東近江市で暮らし続ける地域ブランディングを実現するため、市民が主体的にまちに関わろうという前向きな気持ちを育む人材育成について行政、市民、企業、教育機関等が議論し具体策を検討する。

